

舟運活性化に向けた取組について

<これまでの取組>

	2016年度 ～2017年度	2018年度	2019年度
新規航路の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会実験の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2016年度 (浅草～天空橋など3航路) ・ 2017年度 (臨海部の循環など5航路) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会実験の成果 → 3航路で民間による運航が開始 ○ 水上交通ネットワークの構築に向けた基礎調査実施 (人の移動の状況や有効な航路の抽出など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都内で初めて朝の通勤等の交通手段として船を利用した社会実験を実施 ○ 舟運の交通利用に関する調査実施 (水上交通ネットワークの事業性の検討など)
認知度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 舟運のHP (東京舟旅) の開設 ○ ポスターの掲示、パンフレットの作成、配布 	<ul style="list-style-type: none"> ○ PR動画の作成、放映 ○ るるぶ「東京舟旅」の作成、配布 ○ 乗換案内Visitにより、舟運情報を発信  	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「OZmagazine」とタイアップしたパンフレットを作成、配布 ○ ホームページ上での臨時便等の予約を拡充  
魅力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水辺のイベントの開催 ○ 企画便の運航 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企画便の運航 (「ハダツシ」クルーズなど3種類) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企画便の運航 (「シアトリカル」クルーズなど3種類)
利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 案内サインの現状調査、設置 (天王洲など2箇所) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 案内サインの設置 (吾妻橋など6箇所) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 更新の機会に合わせて案内サインの整備 (箇所)

○ 社会実験の実施

社会実験の成果により3航路で民間による運航が開始



- 1

第2縄定丸
旅客定員 42名
全長/全幅 9.8m/3.6m
- 2

Marine00 (ほか)
旅客定員 6~8名
全長/全幅 6.3m/2.7m
- 3

イスイス NANO3号
旅客定員 27名
全長/全幅 8.9m/2.8m

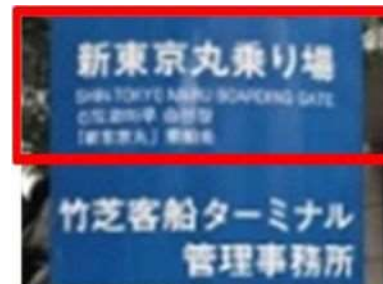
○ 案内サイン

管理者等により表記が異なっていた案内サインの表記を統一

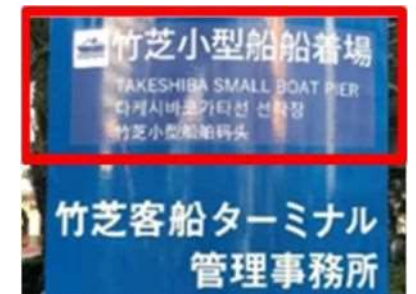
- ・多言語表記は、和英2か国語を基本
地域の状況に応じて、その他の言語を併記する
- ・ピクトグラムと名称の組み合わせを基本ルールとし、表記レイアウトを統一化



表記の統一方針



更新前

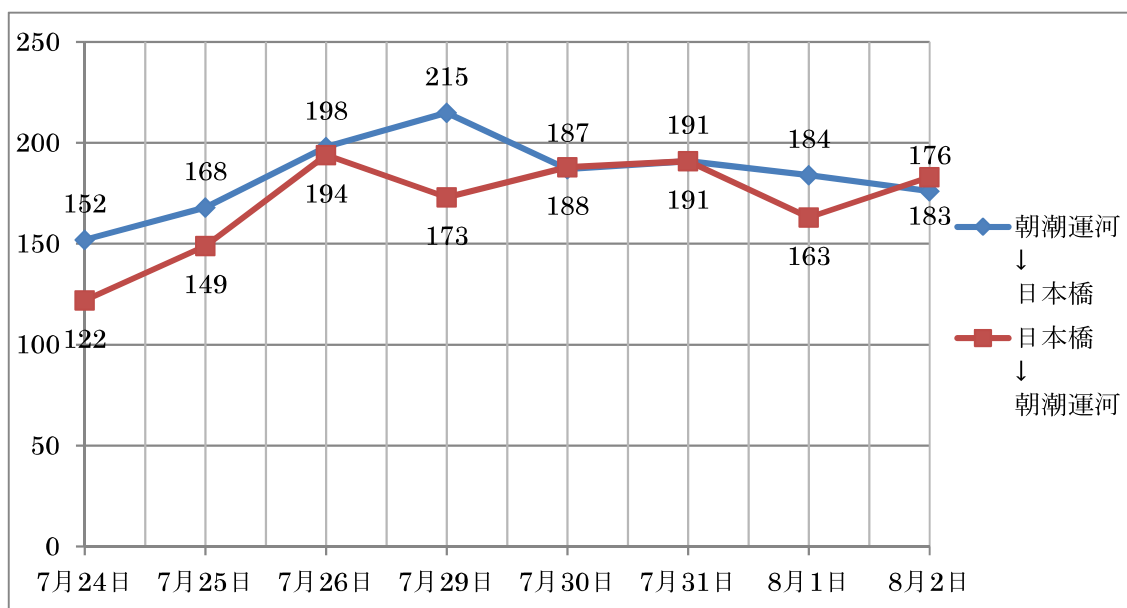


更新後

舟運社会実験の乗船人数及びアンケート結果について

1 舟運社会実験の乗船人数

単位：人



乗船人数計：2,834人 乗船率：63% (2,834 / 4,480)

2 アンケート結果

- アンケート回収率は60%
(アンケート回収数 / 社会実験参加者数
1,698 / 2,834)
- 概要は別添のとおり

3 今後の展開

社会実験のアンケート結果や今年度調査の中で事業採算性等を検証し、実現可能性の高い航路について、関係機関とその実現に向けて調整を行っていく。

“真夏のらくらく舟旅通勤” アンケート集計結果（概要）

－日本橋～朝潮運河間 東京都舟運社会実験－

1 アンケートの回答者について

① 社会実験期間及び乗船率

- ・期 間：2019年7月24日（水）から8月2日（金）の平日8日間
- ・乗船率：63%（2,834名/4,480名）

② アンケート回収率

60%（アンケート回収数／社会実験参加者数 1,698／2,834）

③ 回答者の性別、年齢及び職業

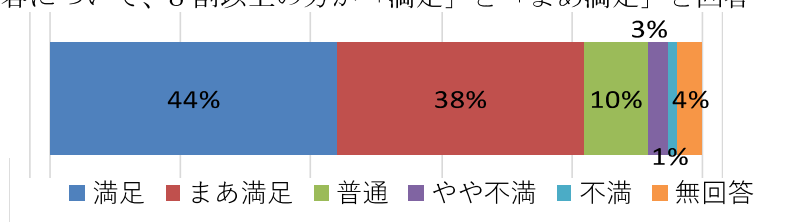
「男性」が6割で「女性」が4割となっている。

「40歳代」が30%で最多。「40歳代、50歳代、30歳代」をあわせて、7割となっている。

「会社員・公務員等」が7割を占めている。

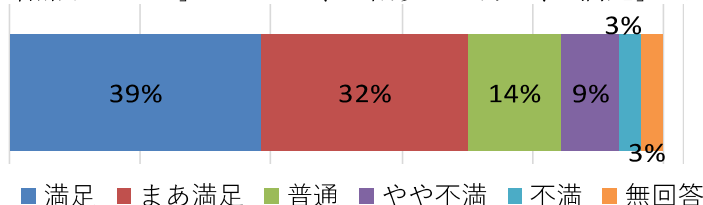
2 社会実験の内容について

- ◇ 社会実験の内容について、8割以上の方が「満足」と「まあ満足」と回答

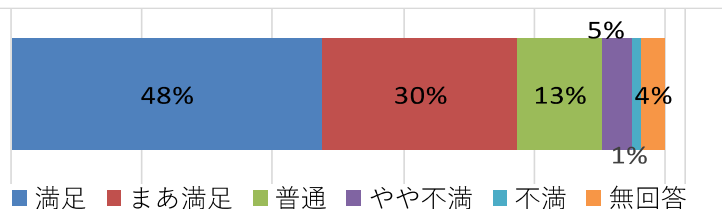


- ◇ 「設定ルート」、「着席サービス」について、7割以上の方が、「満足」「まあ満足」と回答

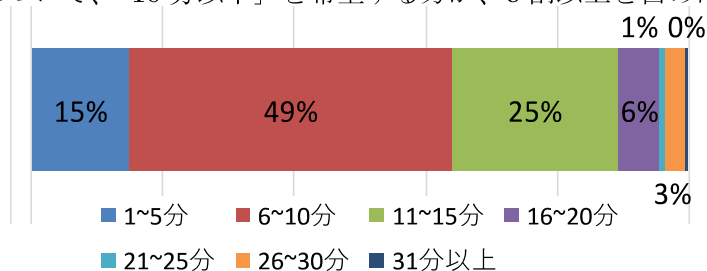
「設定ルート」



「着席サービス」

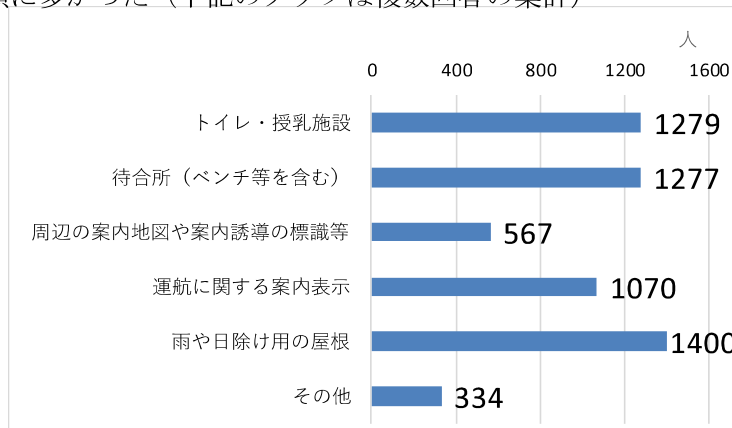


- ◇ 「運行間隔」について、「10分以下」を希望する方が、6割以上を占めた



3 船着場について

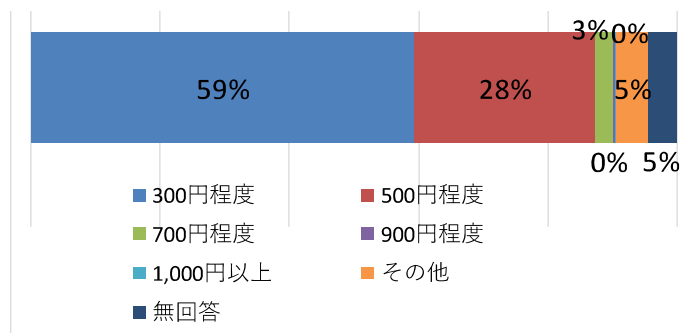
- ◇ 船着場にあると良いものとして、「雨や日除け用屋根」「トイレ・授乳施設」「待合所（ベンチ等を含む）」の順に多かった（下記のグラフは複数回答の集計）



4 交通手段として船の利用について

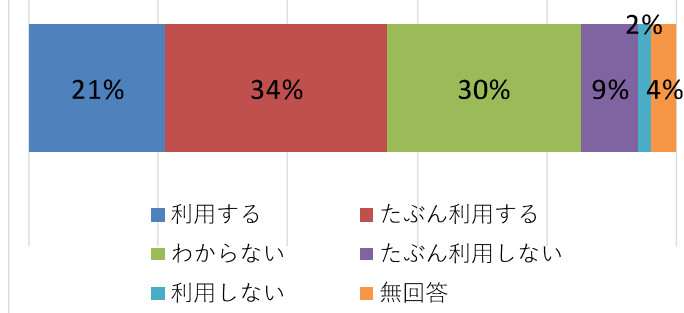
- ① 許容できる運賃について

「300円程度」が約6割、次いで「500円程度」が約3割を占めた



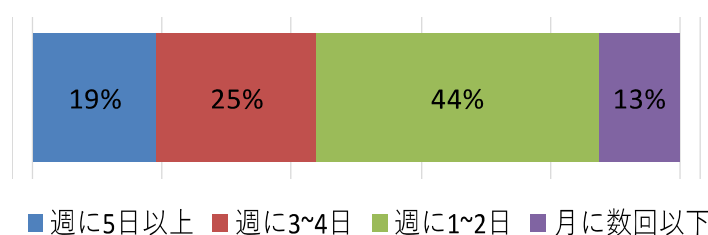
- ② 今後の利用意向について

「利用する」「たぶん利用する」があわせて55%占める一方で、「わからない」も3割占めた



- ③ 船を利用する頻度について

「週に1~2日」が約44%を占めた



④ 希望の始発時間帯と終発時間帯について

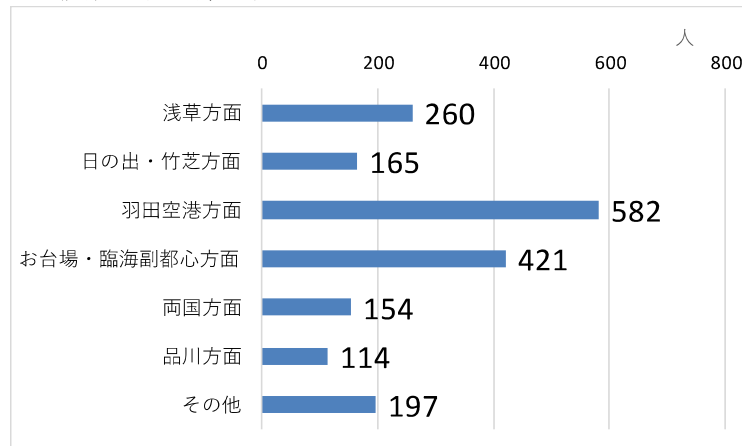
始発時間帯は、「6時台～7時台」に集中し、8割近くを占めた

終発時間帯は、「20時台～21時台」で約5割近くを占めたが、それ以外の時間帯も分散した

⑤ 希望する目的地について

「羽田空港方面」が最多で、次いで「お台場・臨海副都心方面」が多かった

(下記のグラフは複数回答の集計)



5 その他、自由意見

多かったご意見について、項目ごとに要約して以下に記述する。

「船舶への要望に関すること」

- ・船を交通手段として使用するのであれば、船舶には屋根や空調設備が必要。

「主に所要時間に関すること」

- ・もう少し、船の速度を上げる等、所要時間の短縮が望まれる。

「運航に関すること」

- ・朝だけではなく、夕刻や夜間の帰宅に資する運航も考えるべき。
- ・今後とも継続した運航を実施して欲しい。

「社会実験のオペレーションに関すること」

- ・予約サイトやwebアンケートなど、社会実験に関するシステムの改善が必要。

【参考】通勤・通学で舟運を利用する場合の事業性の検討

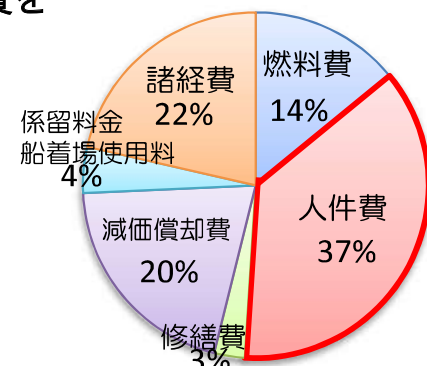


	航路1	航路2	航路3	航路4
営業距離	14.8km	9.2km	12.1km	18.1km
運航船舶数	14隻	10隻	14隻	18隻
推定利用者数 (平均乗船率)	4200人/日 (79%)	3300人/日 (60%)	3400人/日 (63%)	4200人/日 (78%)
収支率	101%	122%	96%	82%
黒字化に必要な乗船率	78%	50%	66%	96%

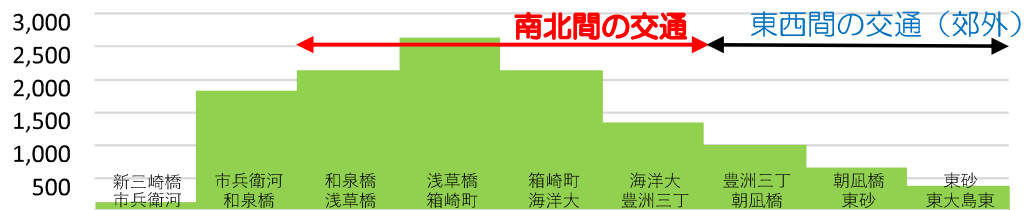
<検討結果>

- 南北方向は、東西方向に比べ一定の交通需要を確保できる
- 都心から臨海部郊外に行くほど利用者が減少する傾向
- 営業距離が長くなるほど、事業採算性が悪くなる (10km、1時間以内が目安)
- 都心や鉄道駅に近い船着場の利用者が多い。
- 営業費の大部分を占める人件費をIT化等を推進することで支出を抑える工夫が必要。

営業費内訳 (10kmあたり)



航路4の断面交通量



航路2の断面交通量

